

令和7年11月17日（月） 読売新聞 朝刊・地域面奈良

土偶「祈りの造形」出発点

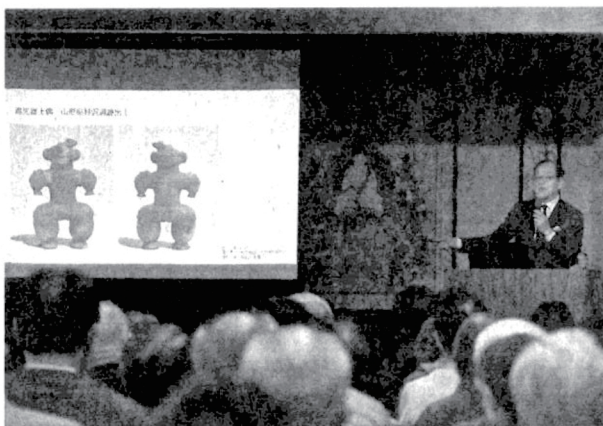
奈良博物館長 所蔵品を紹介

華師寺月例

まほろば塾

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が16日、奈良市の葉師寺で開かれた。奈良国立博物館の井上洋一館長が所蔵品の見どころを紹介し、約180人が聴き入った。

「美」がテーマの「シリーズ美」の2回目。奈良博は「仏教美術の殿堂」と呼ばれるが、井上館長は自らが専門とする考古分野を含めて幅広い所蔵品を誇ることを熱弁した。一例に、山形・杉沢遺跡で出土した縄文時代の土偶を挙げ、人間を埋葬するように寝かされた状況で出土したことなど



一押し所蔵品として土偶を紹介する井上館長（右）（奈良市で）

から、「生命や死後の再生への祈りが類推される『祈りの造形』の出発点だ」と語った。

また、奈良博が今年で開館130年を迎えたことに触れ、「伝統に革新を取り入れて愛される博物館をつ

くりたい」と力を込めた。その後、塾長の大谷徹史・同寺副住職と、美術品の造形に表れる作り手の信仰心などを巡って対談した。今回の月例塾は12月21日、京都国立博物館の松本伸之館長が登壇する。